

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	131045	学校法人名	大東文化学園
大学名	大東文化大学		
事業名	漢学・書道の学際的研究拠点の形成による「東洋人の道」研究教育の推進		
事業成果	<p>本研究ブランディング事業は学部・研究科・研究所・図書館・資料館・センター等による8「研究」チームと学園「広報」チームが推進している。その成果は次の通りである。</p> <p>(1) A「漢籍のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部(中国文学科)・文学研究科(中国学専攻)・図書館・国際交流センター</p> <p>大東文化大学図書館所蔵の既刊漢籍目録と未刊漢籍目録の点検を終え、『大東文化大学漢籍総合目録』の準備のための「デジタルアーカイブス」(15点の貴重漢籍の図版データ・解説)を大学ホームページに公開した。(https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721a)</p> <p>(2) B「書跡のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部(書道学科)・文学研究科(書道学専攻)・図書館・国際交流センター</p> <p>書道学科・書道研究所が所蔵する貴重書跡の調査と写真撮影の成果に基づき、「書跡デジタル・アーカイブス」を構築し本年3月に公開することができた。(https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721b) 本学所蔵の貴重書跡のデータや画像を公開することにより、学内外の研究者等の研究・教育に寄与することができた。さらに図書館貴重書跡の撮影を行い、写真撮影をすべて終了することができた。また、大東文化大学板橋校舎および成田山書道美術館において「大東文化大学の書」展を開催した。2会場で開催したことによって、学内外の多くの来場者到大東文化大学の書の魅力を紹介することができた。図録に代えて二つ折りパンフレットを作成し、情宣を兼ねて無料配布した。これを通して来場の叶わない人びとにも大東文化大学の書の概要を伝えることができた。</p> <p>(3) C「自校史教育・研究の推進」チーム：大東文化歴史資料館・100周年記念事業推進委員会</p> <p>大東文化歴史資料館が所有する知的資源のデジタル化を完了させ、一部を先行公開した(81点)。(https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721c) また本学草創期の教員(20~30名)の活動や業績等の調査・研究をおこない、業績内容のデータベース化などに取り組んでいるところである。</p> <p>(4) D「道」研究」チーム：文学部・人文科学研究所(文学部附置研究所)</p> <p>大東文化大学人文科学研究所研究報告書「東アジアの美学研究班」として、次の3冊の研究論集に「道」研究」に係する論文を収録し刊行した。</p> <p>①2018年度『中国美学範疇研究論集』第七集(2019.3.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〈道〉字例集1(西周~秦) <p>②2019年度『中国美学範疇研究論集』第八集(2020.3.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語』に見る〈道〉の字の使用例とその歴代註解の調査及び収集整理 ・〈道〉字例集2(前漢~後漢) <p>③2020年度『中国美学範疇研究論集』第九集(2021.3.20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『論語』に見る〈道〉の字の使用例とその歴代註解の分析 ・〈道〉字例集3(三国~唐) <p>さらに上記「〈道〉字例集」から一部の画像198件を、本学ホームページ・デジタルアーカイブス「道アーカイブス」に公開した。(https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721d)</p> <p>(5) E「東洋学研究的基礎的読解技術の確保と研究交流の活性化」チーム：東洋研究所</p> <p>①2018年度事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の対象となっている継続刊行物を3冊(芸文類聚、茶譜、天文要録)刊行した。 ・事業の一環とした原典資料の整理・訳注を行う新規の共同研究班を募集し、「明清の文語小説と文人たち」共同研究班(第9班)を立ち上げた。 ・事業計画に基づき、来年度の特集的公開講座を募集し、準備した。 <p>②2019年度事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続刊行物を4冊(芸文類聚、茶譜、大野盛雄フィールドワークの軌跡IV、天心をめぐる人々)刊行した。 ・計画に基づき、特集的公開講座「類書への招待」を3回にわたって開催した(7月25日~8月3日)。 <p>③2020年度事業成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続刊行物を2冊(芸文類聚、茶譜)を刊行した。 ・計画に基づき、特集的公開講座「現代中国の内政・外交問題」を2回にわたって開催した(11月12日~11月19日)。 ・計画に基づき、東洋研究所機関誌『東洋研究』219号を特集号(第9班の「虞初新志」特集号)として編纂し、発行した。 <p>(6) F「拓本コレクションのデータベース化」チーム：書道研究所</p>		

	<p>①拓本コレクションのデータベース化に向けた総点検 宇野雪村（書家・故人）文庫の拓本1,434種、西林昭一（中国書学者）文庫の中国新出土拓本131種について点検し、デジタルアーカイブスで公開するデータを完成させた。その際、拓本の押印など、詳細に点検し、データとして記録した。同時に傷、破損などをチェックし、撮影の際の注意事項とした。並行して、拓本の精査（アップロードの優先順位、真贋等）については、拓本の鑑定において、斯界では第一人者の専門家に委嘱し、慎重に行われた。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大により、作業に遅れが生じたが、目標はほぼ達成した。</p> <p>②拓本コレクションのデータベース化に向けた撮影 撮影業者を決定し、撮影リストを基にすべての拓本の撮影を終了した。（宇野雪村・西林昭一文庫）</p> <p>③デジタルアーカイブスへのアップロード 拓本の精査において確認済の中から厳選し、冊（折本）のアップロードを完了した。 (https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000721f)</p> <p>（7）G「経営学と"道"の研究（経営道）」チーム：経営学部 東洋思想としての「道（ヒューマニティ）」概念と企業経営との関連を把握するため、講演（浦野広明立正大学客員教授）、聞き取り調査（澁澤倉庫、清水建設）を行った。東洋思想の発想は、企業経営の長期性や社会への配慮、法令遵守や堅実性を支える根幹となることが確認された。これら実態調査や文献調査を踏まえ、東アジアの儒教的経営と不正会計、組織の倫理風土と非倫理的行為、渋沢栄一の思想とSDGs、当時は概念が明確でなかったマーケティングにおける多元的な顧客創造と顧客満足や社会的責任といった多角的な視点から学会報告および論文執筆を行った。</p> <p>（8）H「書道とスポーツ・健康科学の研究（書道の科学）」チーム：スポーツ・健康科学部 本プロジェクトチームでは、一流の書道家が表現する造形芸術をスポーツ科学分野で汎用されているバイオメカニクス的手法、生理学的手法、及び心理学的手法を用いて定量的に分析して、これらを体系的にまとめていくことによって書道教育や指導に対する科学的な裏付け資料とすることを目的として研究を進めている。 本プロジェクトチームの現時点における研究成果としては、下記の論文が学会誌に掲載された。 「一流書家の揮毫における運筆の特徴に関するバイオメカニクスの事例研究」、川本竜史、河内利治、宮城 修、田中博史、高橋 将、バイオメカニクス研究、2020年24巻、1-7。</p> <p>（9）「ブランディング広報」チーム：総務課・総合企画課・入試広報課</p> <p>①学内広報誌やホームページでの関連記事掲載（2018～2020） ②漢学・書道・自校史などのブランディング関連科目の推奨科目指定（DaitoBASIS）（2018～2020） ③研究ブランディング特設サイトの開設（2018）と多言語対応（2019） ④公開講座・全国保護者会等での広報活動（2018～2019） ⑤「道」に関連した特別コンテンツ制作と公開（Webコンテンツ、広報誌等への記事掲載）（2019） ⑥研究ブランディングを主題材とした「AERAムック」（朝日新聞出版）の制作・配布、デジタルコンテンツの公開（2019） ⑦国立台湾藝術大学との国際シンポジウムの実施（2020） 主な掲載メディア 学内：大東文化新聞、大東文化大学HP、学外（※カッコ内は掲載日）：AERA（2020.10.17、2021.3.29）、産経新聞（2021.3.31、2021.4.21）、美術新聞（2021.4.5）、ユニヴプレス（2020.3）中でも「漢学・書道・自校史などのブランディング関連科目の推奨科目指定（DaitoBASIS）」では、推奨科目指定前よりも全体で履修生の56%アップを達成しており、学内での大学ブランドの周知と定着に大きな役割を果たしている。2020年度に実施された国立台湾藝術大学との国際シンポジウムは、コロナ禍で開催が危ぶまれたものの、オンライン開催にこぎ着けることができた。実施の様子は新聞社の取材を受ける（2021年4月21日産経新聞掲載）など、大学の本事業は、もともと5年計画で立案し推進していることから、3年間の中間報告としてではあるが、概ね当初の計画通り事業成果を上げたと言える。</p>
今後の事業成果の活用・展開	<p>本事業は「創立100周年記念事業」の一環として位置づけられており、引き続き「研究」チームと「広報」チームが協力して事業展開するとともに、その成果を国内外のステークホルダーに向けて発信し、活用を促進していく。</p> <p>（1）A「漢籍のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部（中国文学科）・文学研究科（中国学専攻）・図書館・国際交流センター 学内外の漢籍研究者の意見を参考にしてより充実した「デジタルアーカイブス」を図り、これらの知的資源を活用して新たな漢学研究・書誌学研究の拠点を形成し、漢籍・漢学（中国学）のイノベーション研究を推進する。</p> <p>（2）B「書跡のデジタル・アーカイブス化」チーム：文学部（書道学科）・文学研究科（書道学専攻）・図書館・国際交流センター 来年度には、今年度撮影した図書館貴重書についても「書跡デジタルアーカイブス」において公開することと『大東文化大学所蔵書跡総合目録』を完成させる予定である。これらの一般公開により本学所蔵の貴重書跡の活用が容易になり、学内外における研究・教育面に大いに寄与できる。さらに今回の展示の成果を土台として、100周年事業を展開したい。また、アーカイブスと展示事業との複合的な活用を図っていきたい。</p> <p>（3）C「自校史教育・研究の推進」チーム：大東文化歴史資料館・100周年記念事業推進委員会</p>

本学草創期の教員(20～30名)の活動や業績等をデータベース化し、内容についての研究をおこなう。また収集した資料に関する事実関係に誤りがないかを確認しつつ、関係者の活動業績については、印刷物にして発行する。大東文化歴史資料館が所有する知的資源のデジタル化をもとに学内の他データベースとのリンケージを完成させ、学際的な研究拠点として「大東文化大学百年史(仮称)」をWEB公開する。

(4) D「道研究」チーム：文学部・人文科学研究所(文学部附置研究所)

上記の事業成果が活用・展開される範囲は、国内外の中国学研究者(美学・哲学・文学および思想)、および書家、書学者のみならず、広く社会に還元する可能性を有している。殊に「道アーカイブス」のWeb公開は、広く活用・展開される可能性を有している。

(5) E「東洋学研究の基礎的読解技術の確保と研究交流の活性化」チーム：東洋研究

2021年度以降においても、引き続き継続刊行物(芸文類聚、大野盛雄フィールドワークの軌跡など)及び本事業の成果の1つである第9班の研究結果を刊行する予定であり、特集の公開講座についても、今年度7月中旬より、東洋研究所共同研究班(第7班)による「明治後半期における日本美術界と岡倉天心」と題して、3回にわたる講座を予定しており、2022年度には東洋研究所100周年記念講座を計画中である。以上のように本事業内容を継続的に展開し、成果を蓄積していくことによって、本事業の目的である研究者の育成及び社会における異文化への理解支援に活用していく。

(6) F「拓本コレクションのデータベース化」チーム：書道研究所

拓本コレクションのデータベースを構築することで、国内外の研究機関や研究者の活用が見込まれる。宇野雪村文庫の拓本は中国の西周から清末まで、中国書道史をほぼ網羅し、日本の奈良、鎌倉、江戸、昭和期の拓本類にまでおよんでいる。その中には書に関わっていれば誰もが知る有名なものから、あまり知られていないような小品まで幅広く、書道以外にも歴史や文化といった様々な面での価値が認められる。旧拓、精拓、佳拓の他、採拓数の少ない拓本類は、研究資料としての価値が高く、また美術館や博物館などに貸し出すことで鑑賞教育の資料としても期待できる。また、資料的価値が高い(と思われる)拓本類に関しては拓本を通じて日中の書道文化の実態を知る資料として、国内外の研究者に有益な資料と成り得る。著名な金石家、収集家、書法家の旧蔵や過眼した拓本類も書跡の伝来や鑑賞の記録を知る資料として同様の価値を有している。これらは研究者研究資料に留まらず、高校教育現場においても、授業・部活動の生きた教材として活用されることを期待したい。

(7) G「経営学と道」の研究(経営道)チーム：経営学部

- ① 東洋思想としての「道」(ヒューマニティ)概念を基盤とする新たな経営学、会計学、マーケティング等の研究領域の拡大と理論構築。
- ② 東洋思想の「道」(ヒューマニティ)概念を組み込んだ企業評価の指標の開発(新たな評価軸の作成)。
- ③ 東洋思想の「道」(ヒューマニティ)概念の視点からの企業研修・教育プログラムの開発。

(8) H「書道とスポーツ・健康科学の研究(書道の科学)」チーム：スポーツ・健康科学部

今後の事業成果の活用としては、学会誌に掲載された論文の内容を他のプロジェクトチームとのコラボレーションで学内において研究会、あるいはシンポジウムを開催して、研究成果の内容を公表したうえで本学のホームページに公開していきたい。

さらに、本プロジェクトチームの生理学班と心理学班で現在進めている研究についても、取得したデータの定量化と可視化を行ったうえで論文執筆を進めていく予定である。そして最終的には、書道家が表現する造形芸術をスポーツ科学分野で汎用されている手法により、体系的にまとめることによって書道教育や指導に対する科学的な裏付け資料となるように展開していきたい。

(9) 「ブランディング広報」チーム：総務課・総合企画課・入試広報課

本学では2023年に創立100周年を迎える。現在、2023年に向けて「真ん中に文化がある」というタグラインを掲げ、「『地域・領域・時代を超えた多彩な出会い』を生み出す文化の研究・交流拠点」となることを目指し、理事会下に組織された大東文化大学100周年事業推進委員会のもと、関連する各種周年事業を進めている。2020年度までは本研究事業も含め、主に学内資源(所蔵資料や学生や大学による活動・所属教員の研究内容など)の確認や、学内関係者(学生・保護者・同窓生・教職員)を対象とした広報活動を実施してきた。2021年度以降、2023年度に向けて、本研究事業でも再確認された本学の学内資源をもとに、貴重資料の保存に関する事業の検討や、さらに内外に積極的な情報発信を行っていくことが予定されている。今後はこの創立100周年事業と連携し、これまで本研究事業において得た成果物や知見、広報活動で得た海外研究者や卒業生など学内外とのつながりを活かし、本学ブランド価値のさらなる向上と定着を図っていく。

東洋人の「道」思想、東洋の「人文主義」文化研究の活性化を推進する本事業の研究結果は、日本国内での「漢学」、「書道」の研究にとどまらず、東洋の思想を基軸とした国際的な研究教育・社会発展への寄与が期待される。